

01. 収納コーディネーターとは

収納コーディネーターとは何か



収納コーディネーターとは、整理整頓術や収納アイデアを身につけた「収納のプロ」のことを指します。

一般的な日本の住居はそこまで広いわけではなく、収納場所も限られています。しかし、生活していくにつれて、物は増えていきます。工夫して収納ができるように収納アイテムも多く販売されていますが、「自分の家に合う収納方法が分からない」という方が多くいます。

このような人の手助けを行うのが収納コーディネーターです。

収納コーディネーターは収納に関する知識を多く持ち、収納の依頼を受けた家の片付けをサポートします。

そのため、収納場所に合わせた収納方法を提案するスキルが必要です。場所によって、収納場所の大きさや形は違うため、決まった収納アイデアでは場所に合わない場合があります。限られたスペースを効率良く、無駄なく利用できるように工夫する必要があります。

また、自分流の収納方法でなく、依頼者の意見やライフスタイル、家族構成なども取り入れて要望に合わせた方法を提案します。

収納の種類

収納の種類は大きく分けて「**棚収納**」「**吊り下げ収納**」「**引き出し収納**」の3つに分けられます。一般的な特徴として、「棚収納」と「吊り下げ収納」は、見せる・隠すという両方の収納方法があるのに対し、「引き出し収納」は主に隠す収納だけです。

収納方法が分からないという場合は、見た目と使用頻度を考えてみましょう。

よく使用する物は便利で見つけやすい棚や吊り下げ収納に向いていますが、サイズが合わない・見た目がごちゃごちゃして見える、などの場合は引き出し収納に向いているかもしれません。

棚収納	見せる・隠す収納	*よく使用する物の収納
吊り下げ収納		
引き出し収納	隠す収納	*サイズが合わない物の収納 *見た目がごちゃごちゃして見える物の収納

それぞれの特徴を踏まえた上で、収納方法を決めていきましょう。

* 棚収納



棚収納には様々な種類があります。扉がなく、見せる収納に適している棚の場合は、食器や本などを並べるとスッキリして見えます。また、飾り棚としてコレクションや写真を飾るのもおすすめです。

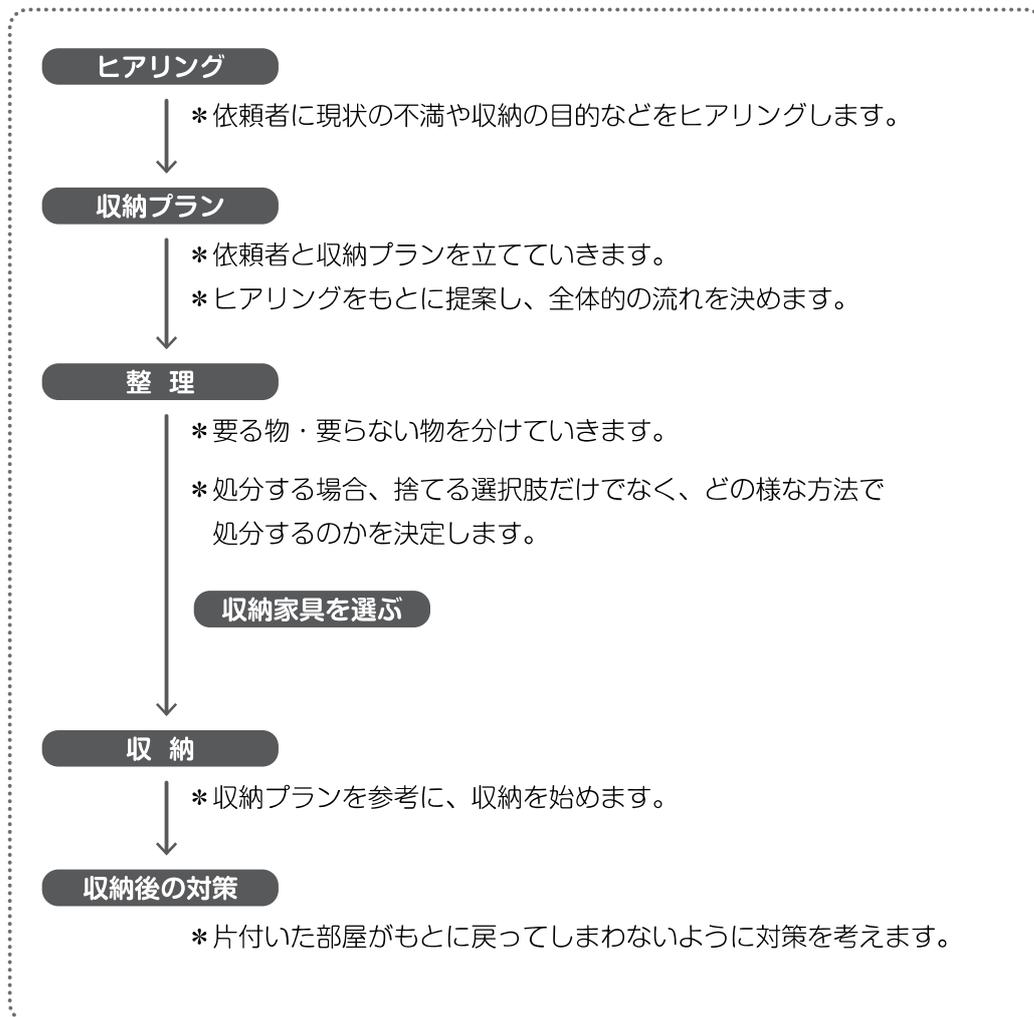
扉付きの棚は、隠す収納として使用します。細かいキッチンツールや掃除道具など、隠しておきたい物を収納するのがおすすめです。

棚は様々なサイズ、大きさがあるため用途に合わせて使い分けましょう。

収納コーディネーターのワークフロー

仕事の流れ

収納コーディネーターは依頼者の収納サポートを行うにあたって、どのような部屋を作りたいのかを欠かさずヒアリングする必要があります。ヒアリングを参考に収納を行い、収納後にリバウンドしてしまわないよう対策を練ることも重要であるため、依頼者の性格を知る必要もあります。



02. 収納プランを考える

事前に行ったヒアリングをもとに、収納プランを考えておきます。数多くの収納をこなしていく中で、この作業は大変重要です。プランを立てずに思い付きで行うと、想像よりも時間がかかってしまう可能性があります。また、自分だけでプランを立てて実行するのではなく、依頼者に共有してずれが生じないようにします。

ポイント

* 収納場所・順番を決める

収納の依頼が「家の全ての部屋」だった場合、どこから収納を始めるか考える必要があります。特に家族が集まるリビングなどの公共スペースは多くの物が集まる傾向があるので、先に整理を始めると良いでしょう。

* 収納後のイメージを共有

収納後のイメージを依頼者に提案します。口だけで伝えるのではなくイラストなどでビジュアル化して分かりやすいように伝えましょう。このときに、イメージのずれが生じてしまった場合は依頼者の意見を参考に練り直します。

* 収納場所のサイズを把握する

事前に収納場所のサイズを正確に測ってから収納プランを立てます。サイズを把握することで、どんな収納家具やグッズが必要なのかを把握することができます。

* 要る物・要らない物に分ける

整理整頓ができず、部屋に物が散らかっている状態の人は要る物と要らない物の区別が上手くできていない状態にあります。判断の基準を決めて、細かく分別していきましょう。ここで、分別するときのポイントを紹介します。

* 一定期間使っていない物は処分する

「いつか使うかもしれない」「もったいない」「まだ使える」といった理由で使わない物を何年も保管している場合は、思い切って処分を検討しましょう。なかなか処分に踏み切れない場合は「次にいつ使うのか」を具体的に考えてみましょう。数年も使用していない物を再び使うことはほとんどないので、具体的に使用するときを決められない場合は処分しましょう。

また、自分の中で「1年使っていない物は処分する」など、基準を決めると分別しやすくなります。

* 一定量を超えた物は処分する

収納場所の大きさは決まっています。増えやすい洋服などは、「ここに入る容量を超えたら処分する」など場所による許容量を決めておきます。

これを行うことで、物が増えるのを防ぎ、定期的に整理する必要はなくなります。

* 写真などの思い出の品や書類は最後に行く

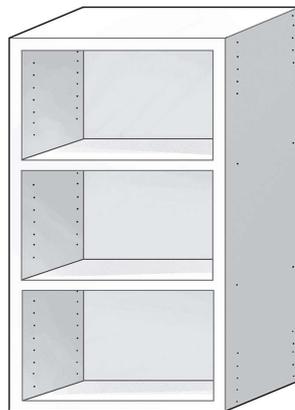
写真などの思い出の品は思い出に浸ってしまい、書類は中身をしっかりと読まない判断ができない物が多いです。これらはなかなか作業が進まないため、1番最後に行くのがおすすめです。

04. 収納家具の種類

用途に合った収納家具（道具）

収納プランや収納後のイメージが決まったら、どの収納家具を使用するか検討します。必要に応じて買い足すか、家にある収納家具の使い方を見直します。収納家具はとても多く、どのように使うか迷ってしまいますが、それぞれの特性を理解して上手に取り入れることが大切です。

* カラーボックス



扉のついていない収納ボックスのことを指します。インテリア小売店やホームセンターなどで安価な値段で販売されています。女性でも簡単に組み立てることができ、用途に合わせて2段、3段など高さを変えられる所も魅力的です。色も豊富にあり、どこに配置しても雰囲気を変えることができるので、便利な収納家具であるといえます。扉がついていないため、中にボックスを入れて引き出しとして使用したり、棚板を抜いて高さをだしたりアレンジが可能です。

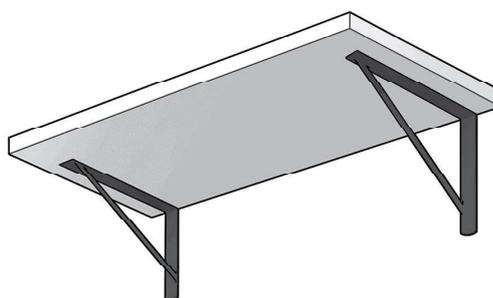
* 棚 (シェルフ)

棚板を横に流して、その上に物を配置します。棚といっても種類は多く、壁に取り付ける棚や、背面や側面の板が少ないオープンシェルフなど様々です。

* 取り付け棚

壁に棚板と棚受けを取り付け、その上に物を置く収納方法です。

サイズやデザインなど、自由を選ぶことができます。主に見える収納に使用するため、インテリアを重視する必要があります。また、賃貸物件の場合は事前に取り付け可否を確認しておきましょう。



壁に棚を取り付ける場合に使用できるアイテム

* L字金具

壁面に棚板を取り付けている場合によく見る金具です。名前の通りL字をしていて、そこに棚板を取り付け、壁に設置するだけで簡単にウォールラックが完成します。リビングや廊下、キッチン上のスペースにも使用できます。

* クロスピン

針が3本ついているピンです。石膏ボードを使用している壁に使うことができます。重い物を配置する必要がなければ、クロスピンを使用して棚を取り付けることができます。ねじのように目立った跡が残らないため、賃貸物件の場合にも使用できる可能性があります。



* フローティングシェルフ

棚受けを棚板に埋め込んで、棚を浮いている用に見せます。棚受けが見えないので、すっきりした印象を与えます。リビングなど、お洒落な空間にしたい場合におすすめです。

05. 収納を始める

場所による収納方法

場所によって収納する物が異なるため、収納方法も場所によって工夫していきます。
共通のポイントとして、「使いやすく出し入れしやすい」収納を心がけましょう。

* 玄関



玄関はお客様が来られた際、一番最初に目にする部分です。

靴が出しっぱなしになっている状態は避けて、常にスッキリした状態を保ちましょう。また、家に帰ってきた状態でアウターや鞆が置きっぱなしになってしまうのも、玄関が散らかって見えるので避けましょう。収納場所がなく、出しっぱなしにする他ない場合は、収納術を学んでスッキリ見える工夫をしましょう。

* 下駄箱収納

持っている靴はできるだけ下駄箱に収納できるように工夫します。

靴が増えて下駄箱に入りきらなくなることを防ぐために、「1足増やす場合は1足処分する」など**決まった数を一定に保つ**ことも大切です。

上段～中段	<p>普段使用する靴を出し入れしやすい中段に保管します。</p> <p>下駄箱の収納には限りがあります。どうしても靴を多く収納したい場合は収納アイテムを活用しましょう。</p>
	<p>* つっぱり棒</p> <p>靴を下駄箱に収納する際、奥にスペースができる場合はつっぱり棒を入れてみましょう。片足の靴をつっぱり棒に立てることで、収納量が倍になります。</p> <hr/> <p>* ラック</p> <p>靴を下駄箱に収納する際、上にスペースができる場合は市販のワイヤーラックやシューズラックを使用します。ラックを使用することで、上にもう一足靴を収納することが可能です。</p>
下段	<p>子供用の靴は、自分で出し入れできるように低い下段に収納します。</p>
下駄箱上	<p>帰ってすぐに目にする部分です。何かを置けるスペースになっていますが、たくさん置いてしまうと散らかって見えてしまいます。小物置きを設置して鍵やハンコなどをレイアウトすると便利です。</p>
縦長スペース	<p>傘収納や、高さのあるブーツの収納に適しています。</p>
	<p>* 傘を収納する場合</p> <p>傘立てのまま入れておき、雨の日はそのまま玄関に出すことができます。また、つっぱり棒を使用し、そこに傘を引っかける方法もあります。</p> <hr/> <p>* 高さのある靴を収納する場合</p> <p>ブーツなど高さのある靴は縦長スペースに保管しましょう。上のスペースが余ってしまった場合は、棚板を設置することでそのスペースに靴のメンテナンス用品などの小物を配置することができます。</p>

*洗面所



洗面所には、洗濯機や日用品など狭い空間にも関わらず、多くの物を収納しなければいけないため、家の中でも散らかりやすい場所の1つです。しかし、ちょっとしたアイテムや収納方法を工夫することで狭いスペースを上手く活用することができます。

*洗面台収納

洗面台は、お風呂上がりのスキンケアや毎日の歯磨きなど頻繁に使用するため、どうしても散らかってしまいがちです。だからといって毎日使用する物を取り出しにくい位置に隠して収納してしまうと、いつの間にかめんどくさくなり出しっぱなしになってしまいます。便利さを優先し、見せる収納・隠す収納を上手く活用しましょう。

* キッチン

キッチンは物が多いため、使い勝手が悪いとすぐに散らかってしまいます。
また、キッチンが不衛生だと食品にも影響を与えてしまう場合があります。衛生的で便利な空間を意識しましょう。



* ガスコンロ下収納

ガスコンロ下の収納スペースは、コンロで使用するフライパンなどを収納しましょう。
収納アイデアとしては、フライパンを重ねて収納するのではなく、立てて収納することで
収納量も増え、取り出しやすくなります。プラスアルファで収納アイテムを追加すると、
収納量が増え、見栄えも良くなります。

ファイルボックス	市販のファイルボックスを並べて、そこにフライパンなどを収納します。四隅があるファイルボックスを使うことで、スペースを無駄なく使うことができます。余ったスペースには、油・醤油などの調味料や鍋敷きを収納することで、調理中に移動する手間が省けます。 ファイルボックス収納は、引き出し式の場合だけでなく、観音開き式の場合も奥まで手を伸ばさずファイルを引くだけで取り出せるため、便利です。
コの字ラック	観音開き式のコンロ下収納スペースは、上部の空間が上手く使えずデッドスペース化してしまうケースがあります。 この場合はコの字ラックを使用することで上段に物を置けるようになり、収納量がアップします。

*おもちゃ収納

おもちゃは、子供がいる家庭にはほとんどあるのではないのでしょうか。

片付けてもまた散らかってしまうという理由で、リビングには子供が遊んだ後のおもちゃが放ったらかしになっていることもあると思います。



子供用のおもちゃはカラフルで小さい物から大きい物など様々なため、そのままにすると生活感が出てしまいます。出し入れしやすい隠す収納でリビングのスペースを有効に活用します。

また、散らかったおもちゃを毎日片付けるのは根気の要る作業です。この作業を子供自らが進んで行ってくれれば、それほど楽なことはありません。子供が自分で片付けてもらうためには、分かりやすく、片付けたいような収納スペースを確保することです。

ボックス (かご) 収納	ボックスやかご収納はおもちゃを投げ込むだけのため、ボックスを置くだけで子供も簡単に片付けることができます。上から布をかけることで、隠す収納として活用できます。 簡単に片付けることができる反面、おもちゃを出す際に見つからず、すべて出さないといけない可能性もあります。
ワゴン収納	ワゴン収納は持ち運びが可能であるため、使わないときには、ワゴンごと収納することができます。収納場所がない場合は、置きっぱなしにしておかないといけないため、収納することができる場所を確認してから用意しましょう。
引き出し収納	リビング棚やチェストの収納部分が余っている場合、そこにおもちゃを収納する方法もあります。小さいおもちゃであれば、中に小分けのケースを入れることで綺麗に整理されます。 仕分けが細かいと子供が片付けにくいいため、おもちゃの名前や写真を張って分かりやすくする必要があります。

07. 収納はライフスタイルによって変わる



子供の成長や家族構成の変化で生活が変化するように、収納も変化します。幼い子供のための収納家具を購入すると、大きくなるにつれ使い勝手が悪くなり処分しなければいけなくなります。

ライフスタイルが変わっても使いやすい空間を意識することが大切です。

将来を見据えた収納

* 子供用の収納アイテムは、他の用途にも使用できる物を選ぶ

子供のために購入したおもちゃも、成長によって趣味や思考が変わり、使わなくなってしまふことがほとんどです。使わなくなったおもちゃは処分し、収納していたかごやボックスは、ラベルを変えて新しい収納に再利用しましょう。

おもちゃを収納するための「おもちゃ箱」は、おもちゃを収納することに特化していますので、おもちゃが必要ではなくなってしまうと、使い勝手によっておもちゃ箱も処分しなければなりません。多様な使い道がある収納アイテムを使用することで、おもちゃ収納から形を変えて他の物を収納することができます。